学校評価【全計画書・報告書】 令和2年度

「学校教育ビジョン 【学校教育日標】 心巻かにたくましく 自らの生き方を創造する 児育生徒の育成

【目指す子ども像】

- 3149 す とも味り ・自ら進んで学び、将来の夢に向かって努力する子(自主性) ・思いやりの心を持ち、他者も自分も大切にする子(道徳性) ・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子(社会性) ・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子(健全な心身)

- **『番目標』** (1) 授業改善のために主体的に研究・研鑚し、確かな学力の向上に努める。 (2) 暖かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。 (3) 基本的生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。 (4) 小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。
- (5) 組織的・機能的な学校運営に努める。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識や 技能の確実な定着を図 り、学力向上をめざす。	授業のドリル練習・スキルタイム・家庭学習を通して漢字や計算の力の定着に向けて、反復練習させるとともに、個別の指導を充実させる。		スキルタイムや小テストの実 施等により、漢字力や計算力 は年々向上しているが、個人 や学年によって基礎学力の 定着に差がある。	【成果指標】 学年相当の漢字、計算 の力が身についてい る。	学年相当の漢字、計算のテスト結果が80% 以上である児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	漢字・計算の確認テスト (学期末)			
	学習習慣の確立に努め、 主体的な学習態度を育て る。	自主学習ノートは、年間3冊を目標 に継続して毎日取り組む。ノートの 質の向上にむけ、ノート、プリント、 成果物等をシェアすることでレベル アップにつなげる。	学習指導部 (教務主任·研 究主任)	目標冊数の設定や家庭学習頑張 り週間の取り組みにより、自主学 習ノートの取り組みは定着してき た。しかし、ノートの内容は、個人 によってかたよりが見られる。	【満足度指標】 自主学習ノートの内容 が工夫できている。	ノートの内容が工夫できていると思う教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教師が毎日のノートで チェック			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然 防止に努め、いじめのな い学校づくりを推進する。	いじめアンケート・QU調査そして 児童の日頃の様子などをもと に、児童や保護者ときめ細かな 関わりを大切にする。	生徒指導部 (生徒指導主 事·道徳推進教 師)	きめ細やかな児童や保護者 との関わりを推進してきた結果、深刻ないじめはないが、 互いを思いやれる優しい心を さらに育てていきたい。	【満足度指標】 児童が友人関係などで 悩んだときに、相談で きる人がいる。	友人関係などで悩んだときに、相談できる人 がいる児童の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	児童対象アンケート (学期末)			
	明るく、自分からあいさつ ができる子どもたちを育 てる。	て、さらに職員も取り組みを		自分からあいさつできる児童 が少ない。自分からあいさつ をしてくれていても、声が聞こ えないことが多い。	【満足度指標】 明るいあいさつが、自 分からできる。	明るいあいさつが自分からできる児童が多い と判断する教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)			
③キャリア教育・進路指導	自己理解,自己管理能力 を意識したキャリア教育 を推進する。	キャリア教育でつけたい力や重 点目標を意識し、年間指導計画 に沿った指導を行う。また、キャ リアパスポートを活用し、活動後 の振り返りを充実させる。	(キャリア教育	年間指導計画に沿って4つのキャリア 教育を意識した指導が行われるように なってきている。さまざまな活動におい て具体的な目標を持たせ、活動後に 振り返りを行うことで向上させたい。	【満足度指数】 活動後に振り返りを行うことで、児童の自己理解、自己責任能力が高まっている。	振り返りを行うことで、児童の自己理解・自己 管理能力が高まっていると判断する教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)			
④保健管理	自ら進んで、健康なからだをつくろうとする 態度を育てる。	学期始めに「げんき アップ週間」を実施 し、自分の生活を振り 返る機会を持たせる。	保体指導部 (保健主 事・養護教 諭)		【成果指標】 元気アップ週間の期間 中、学級や家庭で清潔 な生活について振り返り、普段の生活におい り、普段の生活についてい る。	期間中清潔な生活を実践している 児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	元気アップカード (実施後)			
⑤安全指導	安全教育を推進し、職 員の危機管理意識と危 機対応能力を高める。	避難訓練は、本校の地理的条件を想定して行う。その他感染症予防に対する職員の研修を行い安全教育の充実を図る。	教頭・安全教 育担当	避難訓練は小中合同で行い、 本校の立地条件から想定した 訓練を行いたい。また、安全 教育に対する職員の意識を高 め児童への指導に活かした い。	【満足度指標】 避難訓練や研修会を 通して、危機管理意 識や危機対応能力を 高めることができ	避難訓練や研修会の実施により、危機管理 意識や危機管理能力が高まったと判断する 職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)			
⑥特別支援教育	児童についての理解を深め、それぞれの児童の困 り感が減るように支援し ていく。	児童の困り感に対する支援 を、専門相談や校内支援委 員会等を通して検討し、実 践していく。	生徒指導部(特別支援コーディネーター)	これまでも、児童の困り感が 軽減するように支援方法を考 えてきた。引き続き支援方法 を検討し、実践していきたい。	【努力指標】 支援の必要な児童に ついて現状を把握し、 支援の在り方を見直 す。	児童の現状を把握し、支援の在り方を見直したり、実践できたりした教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)			
⑦組織運営·業務改善	業務の平準化をめざす。	部会で業務の分担や行 事の内容の精選につい て検討する。	学校運営委員 会 (教頭·各主 任)	業務改善の意識は高まり つつあり、協力体制もよ いが、主担当者の負担が 大きくなりがちである。	【努力指標】 各部会で業務が平準化されるように内容を見直し適切に仕事を分担し、実施することができる。	業務が平準化されるように計画し、実施する ことができたと判断する部会が平均値で A:3 B:2以上 C:1以上 D:1未満	毎回の部会でチェック			
⑧研修	「読むこと」の力を高める 授業づくりを研究する。	個の「読む」力を高める授業 を工夫する。	研究推進委員会	2年間の研究の成果で. 授業 改善や全校共通の実践が行 われている。さらに個の力を 高めることに狙いを絞り授業 改善を行う。	【努力指標】 個の「読む」力を高める ことを意識した授業改善に取り組む。	個の「読む」力を高めることを意識した授業改 善に取り組んだと判断する教員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)			
	計画的なOJTと若手層に とって有効な研修を実施 し、人材育成を目指す。	OJT等のサポートを計 画的に開催する。	若手早期育成 プロジェクト コーディネー ター	本校の若手の占める割合が 半数以上を占めている。これ まで行ってきたOJTを、より 若手層に還元できるように計 画的に研修を行う。	【満足度指標】 若手層に力のつくOJT を計画的に実施することができる。	OJT等が計画的に実施され、若手層にとって 有効であったと判断する教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (前・後期)			
⑨保護者, 地域との連携	地域の人材を活用した教 育活動を推進する。	地域の方や保護者の協力を得て、地域学習や伝統文化の継承等における学習効果を高める。	教頭 各担当	児童の教育活動の充実のために、より積極的にまた、継続的に地域人材や保護者、学習の素材となる場所を活用する。	【満足度指標】 地域人材等を教育活 動の中で積極的に活 用し、教育的効果を高 めることができる。	地域人材等を積極的に活用し、教育的効果 を高めることができたと判断する教職員と保 護者が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (学期末)			
⑩教育環境整備	ICT機器を活用し、児童 が意欲的に活動できる教 育環境の整備と教職員 の業務改善を推進する。	Wi-fi環境を活かし、デジタル教 科書等のICTを有効活用した授 業を積極的に行い、児童も有効 活用できるように更なる整備を 行う。	事務·教頭· 視聴覚担当	Wi-fi環境の整備により徐々 に活用が浸透してきている が、より積極的に使用できる 環境の整備や手立てが必 要。	【努力指標】 ICT機器等を活用し、児童 が意欲的に活動できる教 育環境や自身の業務改善 を目指す。	月1回以上デジタル機器を活用して授業や業 務改善に取り組んだ教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)			

学校関係者評価